鉄道のあるまち・くらし（全２回）

ー 学生の室蘭線利用 ー

特集

平成28年11月にＪＲ北海道が「自社単独では維持することが困難な線区」を発表。町内の４駅が属している室蘭線の一部区間、沼ノ端駅～岩見沢駅間もその１つ（黄色線区）。この区間の令和５年度収支状況（左図）を見ると、損益が約10億９、０００万円となっていて、依然として厳しい経営状況が続いています。

道内では今年に入り、赤色線区となっていた根室線の一部区間（新得駅～富良野駅間）が３月31日に廃止され、翌４月１日からバスによる代替輸送に切り替えられました。また、石勝線の滝ノ上駅が３月に廃止、室蘭線（室蘭支線）の室蘭駅が10月から無人駅になるなど、規模縮小の波が押し寄せてきています。

鉄道の規模縮小によって代替輸送を多く担っているのがバス。最近では、「２０２４年問題」やドライバー不足の影響で、バスの減便、路線廃止となる事態に。安易にバスへの代替が可能とは言えない状況にあります。

室蘭線は、乗客の多くを学生が占め、通院や買い物など生活に密着している「生活路線」。今回は、室蘭線を通学で利用する生徒やその家族、通学先となっている学校に、利用状況などそれぞれの目線での取材を行いました。

▲ 室蘭線路線図（沼ノ端駅～岩見沢駅が黄色線区）

▲令和５年度 室蘭線（沼ノ端駅－岩見沢間）収支状況［単位:百万円］

※端数処理のため合計値が合わない場合があります。

1 町内から町外へ通学　親の目線で見る「室蘭線」

「苫小牧工業高等専門学校」に通うお子さんの父親

通常、春から秋にかけては室蘭線（早来駅－糸井駅）と自転車で、天候が悪い日や冬は室蘭線（早来駅－錦岡駅）と路線バスで通学しています。

室蘭線通学のメリットは、悪天時もある程度安全に通学でき、長距離の自転車通学よりも身の安全が確保されること。デメリットとしては列車の本数が少ないため、行事（学校祭など）や部活動（主に大会）のようなイレギュラーな時間帯は、親の送迎が必要になってしまうことも。

定期券代がバス運賃の値上げで高額となっていますが、来年４月からはJR運賃も値上げとなる見込みで、より家計が圧迫されることになりそうです。

そんな状況ではありますが、室蘭線は苫小牧方面への通学には必要不可欠な路線。無くなると苫小牧方面へ毎日の送迎が必要となり、送迎がないと通学できなくなります。場合によっては通学できないために行きたい高校を諦める、または学校の近くへ引っ越さざるを得ないことに。移住施策に力を入れている安平町ですが、通いたい学校に通えないとなると、移住先の候補から外れることも考えられると思います。

【想定される通学経路の変化】

現在（春～秋）

はやきた ⇄（JR 35分）→ いとい ⇄（自転車 30分）→ 学校

廃止となった場合

自宅 ⇄（送迎 30分）→ とまこまい ⇄（JR 10分）→ にしきおか ⇄（バス 30分）→ 学校

もしくは

自宅 ⇄（送迎 30分）→ とまこまい ⇄（バス 45分）→ 学校

※所要時間は目安。
※乗り継ぎの待ち時間を除く。